

景 報

大正十五年卒業論文題目

○印選科生

○哲學專攻

一者の發展として見たる物理学(原則、性質、量及数の關係)

澁谷 藹

ベルグソンの哲學に於ける物質と精神に就て

山中貞義

アリストテレスの本體と神に就て

鹿野治助

カントの「道德法の範型」(Typus)に就て

石川潜神

命題自體論上並びに論理學上に於ける諸私疑

伊藤民夫

「一般に事柄自體及び特に命題自體の本體並びに其の種類」(「最普遍的な形式的學としての論理學」其他)

西村長三

フイヒテの知識學に於ける自我概念について

戸田三郎

ウイルヘルムテイルタイの精神科學序論

岡田正三

プラトンの善論

榑 俊雄

歴史と個體(フイヒテの歴史哲學に關する一考察)

榑 俊雄

カントの超越的對象(X)に就いて

榑 俊雄

ベルグソンに於ける時間と永遠

唐木順三

カントに於ける直觀と思惟との關係に就いて
表象自體と認識の對象性
プラトンに於ける自體と存在
ヘーゲルの論理學
カント哲學に於ける神の存在の證明としてのレカロギ

片岡仁志
種子島源三
高田三郎
瀧道辰巳

カント判断力批判に於ける合目的性に就いて

淡野安太郎

カントの第一アンチノミーと先驗的觀念論

松生利直

時間と意識との關係に就いて

相原信作

物自體と生産的構想力

佐藤道太郎

宗教の妥當根據

佐伯延次郎

非有に就て

小出次雄

ライブニッツに於ける "individual substance" の概念

由良哲次

歴史と個性(S. H. Coase の歴史觀について)

島谷俊三

カントの圖式論に就いて

柴田美稻

はたらきとしての繪について

澤田新太郎

スピノザ哲學に於ける認識と自由

○新城英太郎

カントの先驗的自由に就いて

○竹内三郎

○南洋哲學專攻

○南久一郎

パイドンに於ける不死不滅論

○支那哲學專攻

張橫渠の哲學說

周子の哲學說を論じて其の倫理說に及ぶ

○印度哲學專攻

六波羅密の内容と其の變遷に關する考察

法華經支那傳譯史論

十二緣起に就いて

○心理學專攻

物の知覺表象

表象過程を規定する三傾向

感情の實驗的研究に就いて

○倫理學專攻

Kant 及 Lips の倫理學に於ける理性と感性との關係に就いて

批判的倫理學に於ける人間の概念に就て

カント倫理學に於ける自由に就て

○教育學專攻

教育生活の根本概念

ナトルプの教育學基礎論

北川 振一

本多 三鎧

永田 秀雄

西 部 是 正

中 村 英 俊

山 口 丈 一

井 上 一 郎

前 川 誠 一

小 谷 庄 四 郎

林 亮 天

西 田 禎 文

山 下 虎 一

萩 原 一 二

原 善 平

テューキーの教育說について

フレーベルの教育思想

○美學專攻

美意識の構成について(コーヘン)

天龍山石窟の研究

レツシングに於ける悲劇の問題

シルラアの美しき魂に就いて

J. M. Guyon の天才說管見

○宗教學專攻

ディオオティマ・ソクラテスのエロス

ヤコブ・ベーム

パウロの信仰

○社會學專攻

社會學の二類型に就いて(社會學の心理學に對する關係)

形式社會學に於ける社會概念に就いて

社會關係の基本形式の研究

ギティンクス氏同類意識說の發展に就いて

倫理と宗教

社會學に於ける普遍化的方法に就いて

堀 光 治 郎

○ 中 村 秀

德 永 郁 介

奥 村 伊 九 良

中 島 萬 次 郎

藤 田 貞 次

齋 藤 哲 雄

清 水 宣 雄

赤 司 裕

伊 藤 郷 一

鳴 瀬 恒 太 郎

中 井 虎 一

池 田 龍 潤

古 住 秀 夫

阿 部 政 太 郎

加 來 文 雄

岩 崎 吳 耶